

2020
TOKYO東京都が実施したボッチャの体験イベント
(調布市)

東洋学園大 ボッチャ体験会

主な2年前イベント			
	日程	主な運営団体	会場
東京	25~26日	パナソニック	パナソニックセンター東京
	競技体験のほか、メダリストのトークショー		
神奈川	9月8日	神奈川県	平塚総合体育館など
	ボッチャや車いすテニスなど5競技を体験		
千葉	25~26日	千葉県	イオンモール幕張新都心
	体験会に加え、健康測定や県内企業の製品展示		
埼玉	25日	埼玉県	ららぽーと富士見など
	仮想現実(VR)を使い競技体験、介護ロボットの操作も		

障害者スポーツ知って

2020年夏に東京五輪に続き開催されるパラリンピックまであと2年となり、首都圏の自治体や大学が障害者スポーツの認知度を高める施策を打ち出している。現状では競技の名称やルールが浸透しておらず、試合を見たことがない人が多い。専門人材を派遣してイベントを開いたり、競技の体験会を開催したりして、パラ大会に向けた機運を醸成したい考えだ。

都 選手発掘プログラム

千葉県は18年度から、県内の市町村へ、障害者スポーツに詳しい専門のコーディネーターの派遣事業を始めた。すでに船橋、市川、茂原の各市をはじめ5市町村への派遣を決めている。

地域で障害者スポーツの大きなイベントを開こうとしても、ノウハウや情報がないのが実態だ。コーディネーターの知恵を借り、プレイヤーと大学、クラブチームなどとの調整役も担う。

千葉県は10月に市として初となる「スポーツ・フェスティバル」を開催する。県のコーディネーターの知恵を借り、プレイヤーと大学、クラブチームなどとの調整役も担う。市は「多くの人にパラ競技を知ってもらいたい」と話す。

「パラスポーツの魅力と社会的意義を伝えてもらいたい」という。東京都が17年に都民を対象に実施した調査によると、最近1年間で障害者スポーツを観戦した人の割合は57%だった。認知度は以前に比べ高まっているとはいえず、競技の名称やルールを知らない人はなお多い。首都圏の自治体は相次ぎ普及に力を入れる。

神奈川県は10月、誰でも参加できるボッチャの大会を綾瀬市内で初めて開く。大会に出場経験のあるチームによる「競技部門」と、初心者も参加できる「レク部門」をそれぞれ用意し、幅広い参加を目指す。東京都や埼玉県も8~9月に障害者スポーツの体験会を開催する。

障害者スポーツの競技者を増やす取り組みも広がる。東京都は20年大会に出場できる選手を確保するため、9月から18年度の「発掘プログラム」を実施。水泳、柔道、陸上を中心に、都内在住・在勤の小学校5年生から69歳の障害者が参加できる。24年のパリ大会以降の出場も視野に入れ、選手の育成に取り組む。

東洋学園大学(東京・文京)は8月19、26日の両日、オープンキャンパスでボッチャの体験会を実施する。同大では7月に、車イスを使う学生がボッチャサークルを立ち上げた。サークルのメンバーが中心となり、競技を实践・指導する。

オープンキャンパスには将来の学生が多く集まる。同大はパラ競技の理解促進とともに、五輪・パラリンピックに参加するボランティアを増やしたい考えだ。

福祉人材を養成する埼玉県立大学(埼玉県越谷市)は9月、小中学生と保護者を対象に、障害者スポーツの公開講座を開く。車イスバスケットボールなどの体験を通じて